

教科 【 国語 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	【自力解決】 ・「読むこと」「書くこと」において、自分の課題に合わせて解決方法を選択したり、調整したりすることができる時間を確保する。 【集団解決】 ・「話すこと・聞くこと」において自分の考えが相手に正しく伝わっているか、よりよい表現はないかなどを、互いに確認できる時間を確保する。 【まとめ・振り返り】 ・各単元の振り返りでは、めあてに立ち戻り、向上したことや学び方のよさなどを生徒が自覚できるよう、使用するキーワードや文字数、振り返る視点などを指定する。 ・発表や小单元ごとに100～200字程度の文章での振り返りを行う。
視点2 読み解く力の育成	【自力解決】 ・「言語・知識」の分野では、理解が十分ではない言葉は教科書や辞書などを使って調べさせ、既習事項や用語、図表などを根拠に考えさせる。 【集団解決】 ・説明的文章の分野では「多くの考えを導き出す」際には同義か異義かを意識させて分類・整理させ、「新たな考えを創出する」際には既習事項を根拠に検討させる。 【まとめ・振り返り】 ・感想文や作文では、自分で書いた文章を他の人の文章や教科書の文章などに見比べさせ、相手に分かりやすい文章に修正させる。
視点3 総合的な学習の時間との連携	・文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケートなどの「情報の集め方」を指導することで、自分の課題に合わせて選択できるようにする。 ・著作権における正しい知識を理解させる。 【整理・分析】 ・比較、分類、関連付けなどの「思考の方法」を指導することで、自分の課題に合わせて選択できるようにする。 ・フローチャートなどのグラフを正しく読み取れるようにさせる。 【まとめ・表現】 ・スピーチ、プレゼンテーション、ポスターセッションなどの「発表の方法」を指導することで、自分の課題に合わせて選択できるようにする。

教科 【 社会 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・小学校で学んだ内容の復習を取り入れながら、「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行う。 ・資料の活用に加え、デジタルツールやICT機器を活用して、自ら調べる活動、教え合う活動、経験から発表する活動等を行う。 ・振り返り活動においては、單元ごとにルーブリック評価やペア・グループによる相互評価も取り入れ、学びの質を高める。 ・主体的・対話的で深い学びを実現できる授業を実施し、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・探究的な学習のプロセスを重視し、自ら問いを立てて調査・考察し、他者と共有・評価する活動を取り入れる。 ・生徒に提示されたデータ（統計、グラフ、地図など）を分析させ、生徒自身が探究したい問いを立てる活動を行う。
視点2 読み解く力の育成	・教科書で学ばせる視点を明示し、Input（認識）-Think（思考）-Output（表現）を意識した授業展開をする。 ・生徒が自身の知識で意見をまとめ、資料や既習内容から説明できるテーマを設定し、話し合い活動を行う。 ・話し合い活動においては、役割や評価規準を明確にし、他者の意見を受けて自らの考えを発展させる力を育む。 ・読み取った情報や意見をもとに、自分の立場や根拠を明確にした文章表現ができるよう、段階的に指導を行う。
視点3 総合的な学習の時間との連携	・生徒一人一人に視覚的に分かりやすい授業を展開するために、これまでの事例をもとに、ICT活用を深化させていく。 ・生徒一人一人が自身で視覚的に分かりやすい資料を作成し発表できるように、資料精選法やまとめ方、ICT機器の活用能力等を育成する。 ・プレゼンテーション能力の向上を図るために、発表内容の構成・視覚的工夫・話し方等を具体的に指導し、フィードバックする時間を充実させる。 ・社会科での学びを、地域の課題や身近な生活と結びつけ、地域の人との交流・インタビュー・フィールドワークなど実社会との接点を意識した学習を行う

教科 【 数学 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	板橋区授業スタンダードSに基づき、基礎基本を重視しながらも受験に備え発展的な学習も取り入れていく。 ・授業の明確な目標設定 授業の開始時に、生徒に対して「本時のめあて」を明示し、めあて達成を意識させる。また、目標達成に向けて、生徒自身が自ら問題の難易度を選択する仕組みを作っていく。 ・理解の確認 「振り返り」を授業に入れ、生徒がどこまで理解できているかを常にチェックする。これにより、板橋区授業スタンダードSに基づいた確実な学びを保証していく。 ・学びの可視化 電子黒板やデジタルツールを使って生徒の思考過程を視覚的に整理。これにより、他の生徒と考え方を共有し、理論的な学びの促進につなげる。また、新たな解法への気付きにもつなげる。
視点2 読み解く力の育成	数学科における「読み解く力」とは、文章問題の解釈や数学的な考え方を言語で表現する力だと考える。そしてその力を育成するために以下の3点に精力的に取り組む。 ・文章問題の強化 文章問題を通じて、数学的思考を言語化する問題を多く取り入れる。生徒に文章からどの情報が必要となるのか抽出する練習を繰り返し行う。 ・問題解決プロセスの言語化 数学の問題を解く際に、解答のプロセスをステップごとに言語化させる活動を増やす。授業内で「どうしてそのステップを選んだのか」を他の生徒に説明し、数学的な読み解き能力を深める。 ・クリティカルシンキングを養う 複数の解法が存在する問題を提示し、生徒がどの方法を選び、なぜそうしたかを説明させる。これにより問題を正しくより早く、自分に合った解法を見つけ出す力を育成していく。
視点3 総合的な学習の時間との連携	総合的な学習の時間との連携により、数学の学びを実社会に結びつけることが大切だと考える。 ・プロジェクト型学習の実施 総合的な学習の時間で取り組んでいるテーマ（環境問題や地域課題）を数学と関連付けるプロジェクトを実施。例えば、統計を用いて地域の問題を分析し、データに基づいて解決策を提案する活動を取り入れていきたい。これにより、数学の実生活での応用を考える力の育成をしていく。 ・教科横断的な学びの強化 総合的な学習の時間で学んだ内容を数学の授業で取り入れる。統計データから表やグラフの作成、またその予測など身のまわりで起きていることを数学に落とし込んでいき、異なる視点からの理解を深める。

教科 【 理科 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	○小学校の学びの連続性を意識し、「板橋区授業スタンダード」に基づいた「分かる・できる・楽しい」授業を行い、基礎的な知識や技能の習得、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力の育成、主体的に学び合う態度の育成を図る。 ○めあてや見通しの提示、振り返りの実施等の授業の流れの中で、課題解決的な学習、発表や小単元、実験ごとに100字程度の文章での振り返りを行う。 ○生徒自身が自然現象の検証や疑問等を解決するための目標や計画を立て、生徒自身のペースで実験・観察・調査し、その成果を他者との共有する活動を取り入れる。また学習の振り返りを行いながら自己調整力を身に付ける。
視点2 読み解く力の育成	○「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、一人一台端末を活用し、興味関心もてる授業、明確な発問や指示、気付きのある授業、活動や発表が多い授業、課題解決的な学習、200字程度の文章で考えをまとめる活動、個人ーグループー個人で考えを深める授業を行う。 ○教科書で学ばせる視点を明示し、Input-Think-Outputを意識した授業展開をする。 ○「個人ーグループー個人」で、考えを深め、文章で表現できるように指導の充実を図る。 ○文章や図表に取り組むことで、必要な情報を正確に取り出し、理解・解釈・推論して解決したり、表現する力を育む。
視点3 総合的な学習の時間との連携	○生徒自身が課題設定及び情報収集ができる内容に関しては、生徒一人一人調べさせ、整理分析・できることを考え、まとめ発表を行わせることで、総合的な学習の時間につなげられるようにする。 ○一人一台端末を活用して、実験のデータをまとめ、考え方を共有したり、データをスライドやスプレッドシートにまとめていけるようにする。

教科 【 音楽 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- ・「板橋区授業スタンダード」を徹底し、その時間のめあてをわかりやすい言葉で掲げ、常に意識することで、「分かる・できる・楽しい」授業の展開につなげる。
- ・一人一台端末の活用を意識した授業展開を行う。個人で目的をもって調べる活動や、自分たちの演奏を振り返るツールとしての活用など、幅広く活用する。
- ・小集団での活動を取り入れ、自分たちで学習を調整できるようにする。
- ・単元の終わりに、100字程度の振り返りを書く活動を継続させる。

視点2

読み解く力の育成

- ・Input＝めあての達成や活動中に必要となる用語を正確に理解できるようにする。
- ・Think＝個人の活動だけでなく、グループでの活動も多く取り入れる。
- ・Output＝用語の意味を確認しながら、自分の言葉で表現できるようにする。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- ・総合的な学習の時間にも応用できるような調べ方やまとめの方法を取り入れる。

教科 【 美術 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	○授業の流れを常に黒板の見やすい位置に記しておき、生徒が現在の学習内容を確認できるようにする。 ○「分かる・できる・楽しい」授業作りを行う。そのために、生徒同士が教え合う学習やグループで意見交換を行う活動を取り入れ、楽しみながら見方・考え方を深められるようにする。 ○制作の進度に差が生じるため、綿密な机間指導や振り返りの記述を確認し、進度や制作方法ごとにグループを随時特設しながら、自己調整を図る。 ○制作においては、生徒が自分に合った制作方法や順序を自己選択して自己決定、自己調整を図れる場面を設定できるようにする。そのために、毎時の振り返りで自身の取り組みの整理と、次時で取り組むこと、改善するところを記入させ、次時の冒頭に確認させる。
視点2 読み解く力の育成	○Input→授業の導入時に前時の振り返りとめあての提示を必ず行い、生徒がその時間の学習内容を正確に把握できるようにする。 ○Think→教科書や資料を読み解いて個人で考える活動、グループで意見交換を行うことで考えを深める活動など、多様な学習形態を取り入れる。 ○Output→単元末に、題材を通して学んだこと、工夫したこと、気が付いたこと、今後に生かせそうなことなど視点を示した上で200字程度にまとめる活動を行う。
視点3 総合的な学習の時間との連携	○一人一台端末を活用して、作品制作の過程や考えをスライドやドキュメントにまとめて発表する機会を設け、総合的な学習の時間でも活用できるプレゼンテーション能力を身に付けさせる。

教科 【 保健体育 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・授業の最初にめあてや本日の授業の流れを提示し、生徒に見通しをもたせる。 ・一人一台端末を活用し、興味関心をもてる授業、課題解決的な学習、個人やグループで考えを深める授業を行う。具体的には、正しいフォームや動画で確認し、自身の動作と見比べたりすることで、より正しいフォームを意識し、改善や上達しやすい環境を整える。 ・「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行う。そのためにも、種目やそれに応じた役割などを丁寧に説明する。また、仲間と協力する場面やルールを工夫することで、それぞれが活躍したり楽しんだりできる環境を整える。 ・授業の終わりに、授業を通して分かったことやできたこと、改善点などについて100字程度書き、振り返りを行う。 ・保健分野では、一人一台端末を活用し、既習の単元からさらに深めたいテーマを選択し、自分で目標を立て、個・グループかを選択し、学習を行う。
視点2 読み解く力の育成	・保健分野では、「健康な生活と疾病の予防、身の発育・発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、社会生活と健康等」の保健の基礎的な内容について学び、個人生活の健康と安全を考え、実生活に生かせるようにする。 ・体育理論では、スポーツへの関わり方やスポーツがもたらす体と心への効果、社会におけるスポーツの役割などを学ばせ、生徒自身が生涯を通してスポーツとどのように関わっていくべきかを考えさせ、実行するように指導する。 ・体育分野では、体の動かし方や運動やスポーツの価値等の学びから、自分の健康や体力について考え、主体的に運動する力を身に付けられるように指導する。
視点3 総合的な学習の時間との連携	保健分野（環境問題等）や体育理論（スポーツの多様性等）で学んだことを総合的な学習の時間（SDGs・環境等）に繋がられるようにする。具体的には、温暖化やごみ問題、異常気象が世界で頻発していることを理解させる中で、「物を大切に扱う。食べ物を大切にする。道具や生きものを大切にする。」ことの必要性を理解させる。また、自分のことだけでなく、他者、地域や世界・宇宙にまで目を向けられる態度や心を育む。

教科 【 技術 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組

- ・身近な生活より例題を提示することができる。よって、授業の導入時に身近な課題を提示し、本時のねらいを明確にさせる。
- ・毎時、前回の振り返りを問いとして投げかけ、意欲を向上させる。
- ・班活動の活性化を図り、意見交換、協働作業、サポート体制に取り組ませる。
- ・実習、演習を中心に展開することから、生徒の多様なアイディアが生み出せるよう設計に時間を多く設定し。作品の完成に充実感をもたせる。
- ・実習の進度に差が生じるため、実習到達度シート（振り返りシート）を確認しながら、進度別グループや課題別グループを随時設定しながら、協働製作を進める。

視点2

読み解く力の育成

- ・もの作りでは多くの工具、道具、機械を使用することから、その仕組みや用途を教科書から学び（Input）、実際に実習で取り扱う際は安全に使用する（Output）ことを継続的に行う。また、ICT等を活用し短時間に振り返ることができるよう教材の準備を整える。
- ・進度別グループや課題別グループ内で相談したり確認したりできるように実習状況を把握するとともに、グループ活動を通して工夫点や疑問点をまとめさせ、他者へ発表する場を設ける。
- ・作品完成後は、自己評価を発表させる。

視点3

総合的な学習の時間との連携

- ・今年度の総合のテーマは進学先を目指した自己実現と修学旅行を通して歴史・文化の習得である。中学校生活の集大成が、進路先にも生かされることがねらいなので、教科では、「将来、自ら何を生産する人になるのか？」という問いに対して、3年間で学んだ4つの領域をどのように活用できるのか、まとめさせる。
- ・今後は社会人との接点が多くなることから、日頃の授業規律や言語活動にも肯定的に意識させ、社会に踏み出すための基礎を身に付けさせる。

教科 【 英語 】

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・めあてを設定し、自力解決、集団解決、振り返りの学習の流れを定着させ、「分かる・できる・楽しい」授業づくりを行う。 ・一人一人が考え、ペアやグループで互いの意見を出し、考えを深め、深い学びにつなげる。 ・自分の興味関心や目標に合わせて、英語検定やコンクールへの応募を推進し、学習意欲を高める。 ・授業や家庭学習において、アプリを活用し、音読練習や会話練習に取り組ませ、生徒自らの理解を確認し定着を図るようにするために、一人一人の学力の定着や向上を確認する。また、各自のペースで英作文の練習をし、AIを活用して採点を行わせる。
視点2 読み解く力の育成	・発問や指示を明確にし、教科書の文章や問題文の意味を正しく理解させる。 ・指示語を理解し、文の構造を正しく把握できるよう基礎的読解力を身に付ける授業を行う。 ・全国学力調査の結果より、社会的な話題に関する短い文を読み、要点を捉え、その考えと理由を述べることを課題と感じた。授業で個人→グループ→個人で考えを深める協働的な学習を通して向上させる。 ・自分の意見や考えを根拠や理由を示しながら、簡単な英語で話したり、書いたりして、他者に伝える表現活動を増やす。 ・問題解決に向けて論理的に考えたり、自分の意見や考えを根拠をもとに説明する取り組みを増やす。 ・教科書の概要をとらせたり、英語で要約をしたりするストーリーテリングを行う。
視点3 総合的な学習の時間との連携	・総合的な学習の時間と横断的に取り組む教材として、伝統文化、環境、国際理解、人権、キャリア等の問題を自分の問題として考える機会にさせる。身近な話題や社会的な話題について、ペアやグループで話し合う活動を通して、自分の感想や意見などを簡単な英語で述べたり書いたりする言語活動に取り組ませる。 ・これらの単元を通して、事実や自分の考えを整理し、簡単な根拠や理由を示しながら、自分の考えを伝える力を育成する。